

先日は、手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。観察会のレポートを作成しましたのでご覧ください。次回6月の「てがたん」は6月12日(土)で、「田んぼの生き物」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方々へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは6月5日(土)です。よろしくお願いいたします。

5月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→博物館前道路→水生植物園の藤棚→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- 観察日時/天気 2010年5月8日(土)/晴れ
- 参加者 55名(一般39名、子ども16名)
- 市民スタッフ 12名(石原直子、伊東茂子、加藤文雄、蒲田知子、玄地昭八、小泉伸夫、須貝基康、仁科淳、弘實さと子、松村定雄、湯瀬一栄、吉田一博)
- 鳥博職員 2名(塩田いづみ、村松和行)

観察記録 — 5月に観察した生き物リスト—

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、アオサギ/カモ科：カルガモ、コガモ/クイナ科：オオバン/ハト科：キジバト/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ(声)/ツバメ科：ツバメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ツグミ科：ツグミ/ウグイス科：ウグイス、セッカ/シジュウカラ科：シジュウカラ/アトリ科：カワラヒワ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【両生類】 ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル、ウシガエル

【昆虫・クモ】

チョウの仲間：アゲハチョウ、キアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、モンキチョウ、キチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、イラガ(まゆ)、キバラケンモン(幼虫)ウスミノバ(幼虫)/甲虫の仲間：クロウリハムシ、コガタルリハムシ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ヒメアカボシテントウ、ニワハンミョウ/コオロギの仲間：タンボコオロギ(幼虫)、ヒシバッタ/カメムシの仲間：ナガメ、ヨコヅナサシガメ

【花】

キク科：ノボロギク、セイヨウタンポポ、ハルジオン、ノゲシ、オニノゲシ、オオジシバリ、ハハコグサ、ウラジロチチコグサ、オニタビラコ、ヤブタビラコ、ブタナ/ナデシコ科：コハコベ、ハコベ、ウシハコベ、ノミノフスマ、ノミノツツリ、/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、トキワハゼ、ムラサキサギゴケ/アブラナ科：ナズナ、カキネガラシ、セイヨウアブラナ(栽培)/キンポウゲ科：タガラシ、ケキツネノボタン/ムラサキ科：キュウリグサ、ハナイバナ/カタバミ科：オッタチカタバミ、アカカタバミ、ベニカタバミ(栽培)/アカバナ科：アカバナユウゲショウ/マメ科：ゲンゲ、カラスノエンドウ、フジ(栽培)/フウロソウ科：アメリカフウロ/アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/バラ科：ヘビイチゴ、ユキヤナギ/アカネ科：ヤエムグラ/イネ科：イヌムギ/ツツジ科：オオムラサキツツジ(栽培)

5月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「鳥の子育て」でした。手賀沼で繁殖する代表的な夏の鳥オオヨシキリは残念ながら観察できませんでしたが、スズメやツバメ、ハシブトガラスのヒナへの給餌や巣を観察することができました。



今回の案内人：木村稔さん



オオムラサキツツジ

花粉は粘着糸によって数珠のようにつながっています



子どもグループは植物中心に観察しました



スズメ

民家近くの電線に止まっていたスズメ。餌を運んでいるのかな



屋根につくられたスズメの巣。親鳥が飛び出してきました



満開のフジの花の下で野鳥観察にはハシブトガラスの姿



カキネガラシの花と果実

カキネガラシの花は黄色い4枚の花びらで、直径4mmほどです。花を咲かせながら伸びます。果実は長さ2cmほどで、茎に密着してつくのが特徴で、多くのアブラナ科の植物は、右写真のように果実は離れてついています。
(右写真：イヌガラシ)



5月の観察コースと見た生き物



ムラサキサギゴケ

小さな群落をつくっていました



ベニカタバミ

←南アメリカ原産で観賞用に栽培されているカタバミ。ムラサキカタバミやイモカタバミに比べ、花の色が濃く、葉も小さい。



カキネガラシ

水平に長く伸びる茎が特徴で、カカシのような形にみえます



ハシブトガラス

遊歩道沿いに営巣していました。3羽のヒナが確認されました



この日はアオサギとカワウが多く観察されました



アカバナユウゲショウ

南アメリカ原産で、4つに分かれた柱頭がよく目立ちます



ツバメ

毎年、市民農園のトイレにツバメが巣をつくっています

冬鳥たちはいつ帰る？

てがたん下見でホシハジロを見つけました。おそらくこの個体は、北に帰る途中で、休憩に訪れたのだと思われます。

今回のてがたんでも、まだ残っているコガモが数羽観察されました。ツグミのような冬鳥もゴールデンウィーク近くになると姿を見かけなくなります。右の表は、過去のてがたんで見られた冬鳥の観察回数と観察月をまとめたものです（観察回数が多い10種）。すべての冬鳥が4～5月に渡りをしています。



ホシハジロ

種名	観察回数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ユリカモメ	28												
コガモ	25												
オナガガモ	24												
ツグミ	23												
アオジ	22												
セグロカモメ	21												
マガモ	21												
オオジュリン	20												
ジョウビタキ	9												
タヒバリ	9												

観察頻度が高い冬鳥10種の観察回数と観察月